

第21回 総合防犯設備士資格認定試験問題

B 問題解答例



公益社団法人 日本防犯設備協会

B 問題－1（機器関連）
解答例
(1) 目的とサイズ、設置場所について

共通点	目的	サイズ	主な設置場所
画角 A	行動把握	画面のほぼ1/2の高さに人物の全身が映る大きさ	店舗内
画角A25	全体把握	画面のほぼ1/4の高さに人物の全身が映る大きさ	駐車場内
画角B	人物の特定	画面全体に人物の全身が映る大きさ	出入口など
画角C	人相の認識	人物の胸部から上が画面全体を占める大きさ	レジ周りなど

(2) 個人情報

防犯カメラにより撮影した映像の利用は、防犯目的に特定し、その目的達成に必要な範囲に限定すること。

〈設置〉
撮影されている個人に対して、自身の個人情報が取得されていることを認識させるための措置を講ずることが望ましいため、敷地内や施設出入口などの目立つ場所に撮影の告知などを行うこと。

〈運用管理〉
記録された映像が目的以外に利用されないように、管理責任者や管理体制、記録映像の管理、映像の再生や閲覧、記録映像の提出などについて、運用規則を定めておくこと。

次頁に続く

(3) 防犯カメラシステムの応用

①	赤外線ビーム検知器
②	投射されているビーム状の赤外光が遮断されたことを検知して信号を出力
③	通過する人だけを撮影することによって、録画可能時間の長期化が見込める

B 問題－2 (施工関連) 解答例

配線上の 留意点 (5項目以上 上記せ)	1. 供給電圧を定格の範囲内に収めること。
	2. 強電配線との離隔を適切(30cm以上)に確保すること。
	3. 施設する電線及び露出配線部分を適切に保護すること。
	4. 回路に侵入する電氣的雑音防止対策をすること。
	5. 施設される回路の電流を許容範囲内にすること。
	6. 施設される回路の絶縁抵抗値を規定値以上にすること。
	7. 施設される回路の接地を基準どおりにすること。
	8. 施設される電線類を適切なものにすること。
	9. 電線の接続を基準どおりとすること。
	10. 充電部を確実に保護すること。
検知器取 付及び調 整に伴う 留意点 (10項目以 上記せ)	1. 設計図書に加えて、現場の実態を踏まえた設置位置とすること。
	2. 仕様書や取扱い説明書を調べ、有効な検知範囲が広くとれるよう設置位置とすること。
	3. 警戒すべき侵入経路に対し、センシティブゾーンの一つが確実に直角になるように設置すること。
	4. ボードアンカーなどを使用し確実に2箇所以上ネジ止めで施工すること。
	5. 外気と接する窓ガラス及び出入口の戸ガラスにセンシティブゾーンがかからないこと。
	6. 隙間風や太陽光が当たる場所にセンシティブゾーンがかからないこと。
	7. 空調機、FAXなど熱を発生する機器にセンシティブゾーンがかからないこと。
	8. 冷風、温風、熱風が直接検知器カバーにかからないこと。
	9. 太陽光が差し込み、床や家具からの反射光が検知器に入光しないこと。
	10. ロッカーやキャビネットの天端にセンシティブゾーンがかからないこと。
	11. 侵入者検知として不要なセンシティブゾーンは消去すること。
	12. 床面上1mを目安に有効検知範囲を設定すること。
	13. 感度調整用ボリュームには触れないこと。
	14. 検知器が作動するかを0.2m/sから2m/sの歩行速度で確認すること。
	15. 当該室には複数台の検知器を設置するので、個々の検知範囲が適切かを確認する。

B 問題－3（警備関連）

解答例

1. 警備業法第 2 条では、「警備業とは、他人の需要に応じ、営利の目的をもって警備業務を反復継続して行うことをいう。」としており、警備業務を以下の 4 つの種類に区分している。③の例にならって下表の空欄を埋めよ。

①	1号警備	施設警備、 機械警備を含む	事務所、住宅、興行場、駐車場、遊園地等（以下「警備業務対象施設」という。）における盗難等の事故の発生を警戒し、防止する業務
②	2号警備	交通誘導警備 雑踏警備	人若しくは車両の雑踏する場所又はこれらの通行に危険のある場所における負傷等の事故の発生を警戒し、防止する業務
③	3号警備	輸送警備	運搬中の現金、貴金属、美術品等に係る盗難等の事故の発生を警戒し、防止する業務
④	4号警備	身辺警備	人の身体に対する危害の発生を、その身辺において警戒し、防止する業務

2. 警備業法施行規則第 33 条（書面の交付）

契約前書面・契約後書面の交付義務は顧客保護のため平成 17 年警備業法改正で新設されたが、同条五項の機械警備業務を行う契約の場合に明記しなければならない事項の内容について、イ・ホの例にならって下表の空欄を埋めよ。

イ	基地局及び待機所の所在地
ロ	盗難等の事故の発生に関する情報を感知する機器の設置場所及び種類その他警備業務用機械装置の概要
ハ	待機所から警備業務対象施設までの路程（当該路程を記載することが困難な事情があるときは、基地局において盗難等の事故の発生に関する情報を受信した場合にその受信の時から警備員が現場に到着する時まで通常要する時間）
ニ	送信機器の維持管理の方法
ホ	第一号イからナまでに掲げる事項

3. 機械警備業について

各都道府県公安委員会規則による機械警備業者の「即応体制の整備の基準」の内容を記せ。

警報を受信後、25 分以内に現地に到着すること。（特別区の区域を除いた区域では 30 分）
ただし、へき地等に所在し、かつ、基地局において盗難等の事故の発生に関する情報を受信した場合に近隣に居住する管理者に連絡して事実の確認をする等必要な措置を講ずることができる〇〇県公安委員会が認めた警備業務対象施設に係るものを除く。

B 問題－4（設計関連） 解答例

第1警戒線から第3警戒線を有する某研究所の防犯システムのうち、出入管理システムを最新設備に更新するため検討することになった。

今回の更新計画では、各警戒線から内部区域への人の出入口部、すなわち、G1-2、G2-3及びG3-4でのゲート装置と出入管理装置（認識装置）の組み合わせとして適すると思われるものを、組み合わせた理由とともに記入例にならって記せ。ただし、記載は入域のみとし退域については省略可とする。また、装置名称は、機能が同じでもメーカーによって異なる場合もあるので日頃使用している名称でよい。

警戒線	ゲート装置	出入管理装置 (認識装置)	組み合わせた理由
G1-2	<ul style="list-style-type: none"> ・ロータリー式ゲート ・フルハイト・ターンスタイル 	<ul style="list-style-type: none"> ・非接触 IC カード 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲートは構造的に強く通路も狭いので一人ずつ入退室管理（共連れ防止）できる ・非接触 IC カードと組み合わせることで許可者のみ入域させることができる ・強行突破や共連れなどの不法入域者を阻止できる
	<ul style="list-style-type: none"> ・回転アーム式ゲート ・トライポッドゲート 	<ul style="list-style-type: none"> ・顔認証機能付き防犯カメラ ・非接触 IC カード 	<ul style="list-style-type: none"> ・強行突破の阻止力はロータリー式ゲートに比べると劣るが通過スピードは速くフラッパー式ゲートに比べると通過スピードは劣るが屋外使用に向く ・顔認証機能付き防犯カメラ又は非接触 IC カードと組み合わせると多くの入域者を短時間に処理できる
G2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・フラッパー式ゲート ・ツインゲート 	<ul style="list-style-type: none"> ・顔認証機能付き防犯カメラ ・非接触 IC カード 	<ul style="list-style-type: none"> ・強行突破の阻止力はロータリー式ゲートや回転アーム式ゲートに比べると劣るが通過スピードが速い ・顔認証機能付き防犯カメラ又は非接触 IC カードと組み合わせると多くの入域者を短時間に処理できる
	<ul style="list-style-type: none"> ・回転ドア 	<ul style="list-style-type: none"> ・顔認証機能付き防犯カメラ ・非接触 IC カード 	<ul style="list-style-type: none"> ・回転ドアは区域内への騒音、塵埃、外気などをほぼ遮断できるのでそのような機能を必要とする出入口に適す ・顔認証機能付き防犯カメラ又は非接触 IC カードと組み合わせることで許可された人を一人ずつ入退室管理（共連れ防止）できる

次頁へ続く

警戒線	ゲート装置	出入管理装置 (認識装置)	組み合わせた理由
G3-4	<ul style="list-style-type: none"> ・サークルゲート ・部屋構造ゲート 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドアの外部：非接触 IC カード ・ドアの内部：顔認証機能付き防犯カメラ 又は虹彩認証等の生体認証装置 	<ul style="list-style-type: none"> ・サークルゲートや部屋構造ゲートはドアが設置されている部屋の外側扉と内側扉が同時に開かない機構(インターロック機構)とすること ・ドアの内側と外側での二重の認証機能を採用することで許可された人を一人ずつ入退室管理(共連れ防止)できる最も高度な出入管理ができる
	<ul style="list-style-type: none"> ・施錠及び開閉検知機能付き電気錠又は電磁錠扉 	<ul style="list-style-type: none"> ・非接触 IC カードと虹彩認証等の生体認証装置を併用(and 使用) ・顔認証機能付き防犯カメラ 	<ul style="list-style-type: none"> ・当該室への入域許可が設定された非接触 IC カードと生体認証装置の併用又は顔認証機能付き防犯カメラと併用することで高度な出入管理ができる